

# Hondaの 安全運転普及活動 報告書

# 2013

**HONDA**  
The Power of Dreams

**Safety for Everyone**

すべての人の安全をめざして



本田技研工業株式会社 安全運転普及本部  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL:03-5412-1736 FAX:03-5412-1737



## 常に時代の先を見据え、効果的な安全運転教育ソフトを追求

「安全は危険と隣りあっている。危険を知ってこそ、安全でいられる。危険を知識で知らしめ、身体で知らしめること、つまり安全に危険を知らしめることが基本。したがって安全に危険を体験させることが私どもの活動である」。創業者、本田宗一郎が語ったHondaの安全教育の想いです。安全運転普及本部（以下、安運本部）が発足された1970年以来、現在に至るまでその想いは受け継がれ、常に時代の先を見据え、効果的な教育ソフトや教材、教育機器の開発にチャレンジし続けています。



1996年から発行されている「交通状況を鋭く読む」

### 路上での危険を知ってもらうための教材開発

安運本部では1970年代から「危険を安全に体験させる」という考えに基づき、企業や個人のお客様に二輪・四輪の実車による教育プログラムをHondaの交通教育センターで開始していました。しかし、安全教育が進むなか、1つの課題が持ち上がります。実車を使った教育には限界があり、特に、路上での危険を実車で体験させることは不可能だったのです。1990年に安運本部の事務局長に就任した吉村征之は「こうした課題の解決に向けて、ソフトの研究開発活動を強化する必要がある」と考え、2つの取組みに着手します。

その1つは、危険予測トレーニング（KYT）教材の開発。吉村はまず、路上にはどのような危険があるのかを運転者に知ってもらうことが必要だと考えたのです。そこで、着目したのがKYT。1970年代にドイツで始まった手法で、日本では1974年に長山泰久・大阪大学名誉教授が初めてKYTによる安全運転教育を行っています。Hondaの交通教育センターでは1980年代からKYTのペーパー教材をつくり、企業・団体の安全運転研修での講義に使用していました。吉村がKYTを普及させるための教材づくりを指示すると、プロジェクトがつくられ、交通心理学の学識経験者グループとの共同研究が始まります。題材となる危険場面は実際に起きた事故事例をベースにするなど、より現実に即した教育ができるように工夫されました。そして、1996年に「交通状況を鋭く読む～危険予測トレーニング～四輪車編」のテキストブックが完成（二輪車編は1997年）。交通事故分析に基づいた危険場面200ケース（二輪車編は50ケース）のイラストで構成されており、単なる危険の発見にとどまらず、事故が起こる原因や運転者の心理も学べる教材となりました。学識経験者グループのメンバーであった長山名誉教授は完成時に「真に身につく学習ができる教材が開発されました。なぜ、このような危険が生じるのかという背景まで知り、『ああ、そうか』と実感してはじめて、本当に危険を知ったことになり、本当に身についた安全行動がとれるのです」と語っています。

それから17年を経た現在も、この「交通状況を鋭く読む」は多くの企業・団体にKYTの教材として活用され続けています。

## contents

### Hondaの安全運転普及活動報告書 2013

特集：安全運転普及活動の歴史「ソフトウェア開発編」	3
ごあいさつ	6
2013年の振り返りと今後について	8
人づくり	10
●地域での指導者	
●運転管理者・指導者の養成	
場づくり	12
●幼児・小学生・中学生	
●高校生	
●運転者・高齢者	
●関係諸団体との連携	
ソフトウェアの開発	20
安全運転普及活動拠点	22
資料編	24
●2013年安全運転普及活動動員数	
●安全運転普及活動一覧	
●情報公開・Honda企業レポートMAP	
●安全運転普及活動 この1年の歩み	
●安全運転教育機器／交通安全教育教材	



## 路上で起こりやすい事故を安全に体験してもらう

ソフトの研究開発活動における吉村のもう1つの取組みは、混合交通状況下でのKYTができる教育機器の開発です。「どうしたら、路上で起こりやすい事故を安全に体験しながら学べるか」——その解決策として検討していたのがシミュレーターによる教育でした。

「二輪は運転免許を取得すると、すぐに路上に出ることになりますが、これで戸惑わないわけがありません。免許取得前に、路上教習に代わって安全に、しかも教育効果が上がる形の手法として、シミュレーターで教育ができるソフトの研究に着手したのです」と当時、吉村は語っています。二輪シミュレーターのハードについては、1988年から(株)本田技術研究所が開発を先行させていたため、これにKYTができる教育ソフトを加えることになりました。

シミュレーター上に現れる危険場面や、それに至るシナリオづくりでは、交通事故統計だけでなく、社内に蓄積された従業員のヒヤリハット集や、様々なライダーの運転時の視線移動をアイカメラで調査した結果などを参考にしました。運転技術を磨くのではなく、初心者に現実の混合交通のなかで起こりうる危険を数多く体験してもらい、危険予測能力を身につけることに重点が置かれたのです。

実験用の二輪シミュレーターは1991年に完成し、鈴鹿サーキット交通教育センターを中心として約3000人を対象に教育効果の検証を重ねました。そして、1993年の東京モーターショーで「Hondaライディングシミュレーター」を発表。さらに「二輪では路上教習ができなくても、それに近い教習をやれば事故の低減につながる」と、吉村は二輪免許教習のなかにライディングシミュレーターを活用した教習の導入を関係諸官庁へはたらきかけます。

その後、1996年からの大型二輪免許教習制度の施行にあわせて、自動車教習所でシミュレーター教習が取り入れられる



1996年に発表された「Hondaライディングシミュレーター」

ことになりました。それに伴い、二輪の特性や法規走行が体験できる機能を追加し、1996年2月に世界初となる教育用のライディングシミュレーターを完成させます。この時点では、どの教習所もシミュレーター教習についての指導ノウハウはありませんでした。そこで同年4月、安運本部内に教育機器課を発足。ライディングシミュレーターを購入した全国各地の自動車教習所に課内のスタッフを派遣し、教習指導員に対して指導方法を伝える研修を実施しました。教習指導員に好評だったのはマルチアイシステム(走行再生機能)。Honda独自のものです。事故やヒヤリハットに至るプロセスを運転者の視点だけでなく、多角的な視点から再生できます。これにより、自分の走行を客観的に振り返ることができ、教習生に気づきを促す指導が可能になったことが多くの教習指導員に評価されました。

1997年、ライディングシミュレーターには高速走行や白バイの訓練用の新ソフトなどを追加。2001年にはフルモデルチェンジされ、走行時の臨場感を向上させるとともに、よりコンパクトになるなど進化を果たします。

## 二輪から四輪、自転車へと広がるシミュレーター

ライディングシミュレーターが教育機器として自動車教習所から高い評価を得ていたため、四輪シミュレーターの登場も待ち望まれていました。1998年、四輪シミュレーターの開発に向けて、安運本部内にプロジェクトを立ち上げます。四輪シミュレーターは既にいくつかのメーカーでつくられていましたが、運転者のシミュレーター酔いが問題となっていました。このシミュレーター酔いを緩和するため、初心運転者教育用シミュレーターとしては初の6軸モーションベース(動揺装置)を採用。これにより運転時の酔いが緩和されただけでなく、加速・減速感もリアルに体験できることになったのです。

そして2001年、「Hondaドライビングシミュレーター」が発表されます。その後、ドライビングシミュレーターの教育ソフトをオー



2001年に発表された「Hondaドライビングシミュレーター」



2009年に発表された「Honda自転車シミュレーター」



「Hondaライディングトレーナー」



「Hondaセーフティナビ」



「Honda動画KYT」

ダーメイドで提供できる体制を整備したことから、自動車教習所だけでなく、大学などの研究機関や企業などにも導入されるようになりました。2010年にはフルモデルチェンジされ、教習生の危険に対する認知力や理解力を高めるための機能が追加されました。

こうして培われたシミュレーター技術は、様々な教育機器の研究開発に活かされます。1988年からライディングシミュレーターの開発に携わった(株)本田技術研究所主任研究員の宮丸幸夫は1993年にライディングシミュレーターが発表された際、自分の子どもを乗せたことがありました。ライディングシミュレーターに乗っている姿を見た時、「子どもが楽しみながら交通安全を学べる自転車シミュレーターもつくりたい」と感じていました。それから8年後の2001年、安運本部事務局長であった本間廣一郎は自転車事故に着目し、自転車の安全運転教育ができるシミュレーターの開発を指示します。宮丸もプロジェクトに加わり、開発がスタートしました。

プロジェクトでは、まず小学生を対象に教育できるものを想定。単なるシミュレーターの体験で終わらないよう、自転車乗用中の安全行動をいかに子どもの身体に覚えさせるかということが開発テーマの1つでした。そこで、前方だけでなく後ろや左右の状況も確認できる仕組みをつくり、発進時の後方確認や、見通しの悪い交差点で左右の安全確認といった動作を身につけられるようにしたのです。2007年に完成した試作機を使って様々な検証を重ねた結果、小学生だけでなく、中学生や高校生、高齢者にも対応できることが確認できました。その後、いろいろな体格の方が利用することから、ハンドルやサドルだけでなく、モニターの位置も調整できるように改良を加えています。さらに、様々な場所に移動して使用することを考慮し、持ち運びのしやすい構造にしました。こうして、2009年に「Honda自転車シミュレーター」を発表。折しも、社会的に自転車事故への関心が高まり、自転車教育の普及が求められている時でした。発表以来、自転車シミュレーターは警察や自治体などに導入され、集合教育に適していることから全国各地で行われている子どもや高齢者への自転車教育に活用されています。

## より多くの方が手軽に体験できるように

さらに時代のニーズに合わせ、シミュレーター技術を応用し

た多彩な教育機器が生み出されていきます。より多くの人に二輪・四輪のシミュレーターを体験してもらうことをめざし、二輪では「Hondaライディングトレーナー」、四輪では「Hondaセーフティナビ」を開発しました。簡易型のシミュレーターとして、手軽に安全運転のポイント、エコドライブ(セーフティナビのみ)が学べるようになっており、Hondaの二輪・四輪販売会社に導入されています。

また、KYTで受講者に提示する危険場面も静止画から動画へと進化させています。「Honda動画KYT」は集合教育において、実際の交通状況に近い動画を活用し、認知・判断をともなうKYTができるように開発され、企業・団体の社内での安全運転教育に活用されています。

Hondaのホームページでは「道路のキケン、発見!」<sup>\*</sup>というコンテンツを提供。二輪・四輪・自転車・歩行者のカテゴリーごとに、動画による交通場面のケーススタディが用意されており、手軽に「交通センス=危険予測能力」を身につけることができます。

## ソフトウェア開発のノウハウを医療や福祉の分野へ

そして今、こうしたソフトウェア開発のノウハウが新分野へ活かされています。その1つが、2012年に発売されたリハビリテーション向け「運転能力評価サポートソフト」。これはセーフティナビ用のソフトで、高次脳機能障害(脳梗塞や脳血管障害など)によりリハビリ中の方が運転を再開する際、その評価や訓練をサポートするためのものです。現在、60ヵ所の病院やリハビリ施設に導入されています。また、身体に障がいをお持ちの方が、より安心・安全に自由な移動ができるよう、車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供することが必要と考え、実車による「自操安全運転プログラム」を開発。Hondaの交通教育センターで受講できる体制を整えました(P20~21参照)。KYTやシミュレーターのように、こうしたソフトやプログラムも今後広く認知され、普及されていくことが期待されます。

高齢化社会の進展や身体が不自由な方の社会進出などによって、交通社会も変化していきます。安運本部では、そうした変化を的確にとらえ、より効果的な安全教育に役立つソフトや教材、教育機器の開発に今後も取り組んでいきます。



# ごあいさつ



本田技研工業株式会社 専務執行役員  
安全運転普及本部部長

## 峯川 尚

日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。お陰様で本年も様々な分野において安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼を申し上げます。

平成24年は、交通事故発生から24時間以内に亡くなられた方は4,411人と12年連続で減少するとともに、負傷者数、交通事故発生件数も8年連続で減少しました。これは交通安全に関わる官・民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。しかしながら、交通事故死傷者数は約83万人と依然厳しい状況は続いており、官・民が連携した更なる交通安全対策が必要だと考えています。

Hondaは商品やサービスを通し、「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現をめざし、安全の取組みを進めています。これまでクルマやバイクに乗っている人のみならず、歩行者、自転車利用者など交通社会に参加するすべての交通参加者に向けた展開を行ってまいりましたが、技術の進化や法規制といった世の中の変化に合わせて今年、「事故ゼロのモビリティ社会」の実現をめざし、あらためてグローバル安全スローガン「Safety for Everyone」を制定しました。この想いを具現化するため、「ヒト(安全教育)」「テクノロジー(安全技術)」「コミュニケーション(安全情報)」を3本柱にそれぞれを進化発展させるとともに、相互に連携することで新たな価値の創造をめざしています。

「テクノロジー」では、予防安全の領域の開発・市販化を本格化させています。10年前CMBS (Collision Mitigation Brake System) として世界で初めて市販車に搭載した「追突軽減ブレーキ」をさらに進化させ、「ぶつからないクルマ」をより多くのドライバーへ」の考えのもと、事故回避支援システム「シティブレーキアクティブシステム」の搭載拡大や、ITS世界会議で公開しました。自律走行技術や他の交通参加者との通信技術による「協調型自動運転技術」など新しい安全運転支

援技術の研究も進めてまいります。

「コミュニケーション」では、事故情報や急ブレーキ多発地点、生活者の皆様が持っている情報を「見える化」し、安全な街づくりに貢献するためのプラットフォームとして「SAFETY MAP」を一般公開しました。様々な方にご利用頂き事故防止の一助になればと考えています。また、スマートフォンやインターナビを通じて、急減速が多発している信号機のない交差点に近づくドライバーに注意喚起し、安全確認を促す「安全運転コーチング」など安全情報を活用した展開もスタートさせました。

「ヒト」へは、「人から人への手渡しの安全」と「危険を安全に体験する参加体験型の実践教育」という、安全運転普及本部発足当時から基本の考え方に基づき展開してまいりました。昨今、より複雑化している混合交通社会において、子どもから高齢者までそれぞれの年代に応じた交通安全啓発や教育が大切と認識し、地域社会と一体となって活動を行ってまいりました。その結果、全国にその活動の輪が広がり、各地域の指導者の方々が主体となり定着しています。

また、昨年度より高校生を対象に「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という意識向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動へ発展させることを目標に、新たな自転車・原付運転者教育などの取り組みも全国へと拡大いたしました。更に、福祉関連施設や福祉関連団体協力のもと、身体に障がいをお持ちの方の移動を支援するプログラムを交通安全教育センターで受講できる体制を整えるなど、新しい分野にもチャレンジしています。

今後もHondaは、「事故ゼロのモビリティ社会」の実現に向け、「Safety for Everyone」を安全スローガンに、「ヒト」領域である安全運転普及活動の取組みもより一層強化してまいります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## Hondaの安全に対する考え方

# Safety for Everyone

## すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト(ソフト)」に伝えること、安全に関わる「テクノロジー(ハード)」の開発、さらには安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしていきます。

その「ヒト(ソフト)」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。



## 安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。



### 交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同して下さる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

### 交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

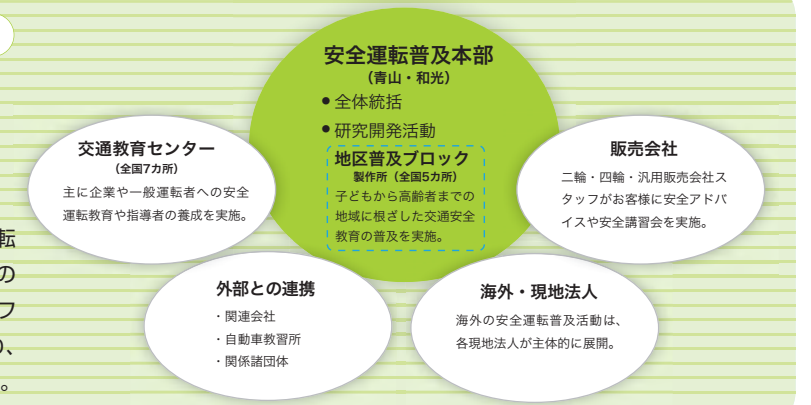
### 学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の一つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験していただける二輪・四輪・自転車の各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

## 安全運転普及本部の活動体制

### できるだけ多くの人に安全教育に参加してほしいから、活動の場を広げています。

安全運転普及本部では、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフを配置し、皆様に交通安全教育の「場」と「機会」を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全普及活動に取り組んでいます。





# 普及活動の更なる拡充と、新たな取り組みへのチャレンジ

安全運転普及本部 事務局長 吉田 宏樹

## 2013年の重点テーマ

今年で44年目を迎えたHondaの安全運転普及活動は、「Safety for Everyone」を安全スローガンに、運転者のみならず歩行者・自転車利用者・高齢者など交通社会に参加するすべての人の安全をめざして取り組んでまいりました。一方、一昨年からスタートした第9次交通安全基本計画では「究極的には交通事故のない社会をめざすこと」を基本理念としています。この理念はまさにHondaがめざしている「事故ゼロのモビリティ社会」の実現と同じであり、Hondaも関係行政と更なる連携を図り、取り組みを続けてまいります。

2011年から進めてきました3ヵ年計画の最終年にあたる今年を引き続き、「地域に根ざした普及活動の定着化」と「社会に求められるノウハウの創出と発信」を重点テーマとして活動を展開いたしました。

### 1 地域に根ざした普及活動の定着化

#### 全国47都道府県に拡がった普及活動

栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本の各製作所に設置した地区普及ブロックによる地域に根ざした普及活動は、今年も地域の交通団体や企業に対する支援として進めてまいりました。地域においてはHondaだけでは交通安全教育を展開することはできないため、いかに交通安全に関わる皆様にHondaの活動にご理解、ご賛同いただき、その活動の輪を拡げていくか、ということを重視しているからです。これまでも全都道府県の交通団体にアプローチしながら進めてきましたが、特にこの3年間は、地域の交通安全に尽力いただいている各団体の交通指導員の皆様に、指導内容の更なる充実を目的として、Hondaが開発した教育プログラムや教材を活用いただき、その輪を広げてまいりました。3年間の最終年となる今年、全47都道府県の地域指導者の皆様との連携を図ることができ、関わっていただいた指導者の人数は約1万3000人、その指導者によってHondaのノウハウを活用しながら、今年だけで全国518市町村、約54万人に安全をお伝えすることができました。なかでも、幼児や小学生、高齢者の方を対象とした交通安全教育プログラム「あやとりい」シリーズは教え込むのではなく、気づかせる教材として多くの指導者の皆様に評価されています。

地域の企業との連携については、Hondaの活動に賛同いた

だき、かつ自社内および周辺地域における交通安全に積極的に取り組んでいただけるお取引先様と交通安全活動を実施しています。お取引先様に選任いただいた担当者に安全運転普及本部が必要な教育を行い、Hondaパートナーシップインストラクター(HPI)として認定し、その活動を支援しています。賛同企業数は40社55事業所、HPIは128名に拡大し、積極的な活動に尽力いただいています。

#### 国内外の安全運転普及活動の充実

運転者教育の充実に向けては、全国7ヵ所にある交通教育センターの活動を強化して取り組んでいます。この3年間で二輪講習や四輪講習を受講された企業のお客様は約12万7000人、個人のお客様は約6万7000人と、運転者教育の普及拡大に努めてまいりました。昨今、ますます増大する高齢運転者に対しては、「Honda健康ドライブスクール」を実施し、自身の意識と行動に差があることを認識していただくことにより、安全な運転への気づきを促すプログラムとして、栃木県にて積極的に活用いただいています。

お客様と直に接する二輪・四輪・汎用販売会社と連携した安全教育も非常に重要な取り組みです。春と秋にセーフティキャンペーンを展開しているほか、販売会社の周辺地域の方々に対する様々な取り組みも行っており、まさにそういった活動こそが、地域に根ざした活動と考えています。今年、四輪販売会社や県ホンダ会と連携した活動を進め、参加された皆様からはたいへん好評であったと聞いております。

関係諸団体と連携した取り組みでは、2011年に 埼玉県警察本部、(株)レインボーモーターズスクールと「交通事故削減のための協力に関する覚書」を交わし、合同プロジェクトとして共同研究を行い、今年はその対策案を報告しました。夜間の高齢歩行者の事故低減を目的とした啓発教材(DVD)や、インターナビから収集したデータや交通事故情報などを地図情報として取り込んだ「SAFETY MAP」を対策案として具現化しています。

海外のお客様や地域社会に対する交通安全の取り組みは、Hondaの現地法人が中心となって展開しており、こうした活動を支援しています。現在、インドの現地法人であるHonda Motorcycle & Scooter Indiaが推進している安全運転普及活動に対する支援を展開中で、その活動を通じて他地域に活用できるノウハウを蓄積しています。また昨年引き続き、安全運転普及活動を行う現地法人や事業所の責任者にお集まりいただき、「Safety Driving Managers Meeting」を開催しました。各国の活動事例の共有化



や、「販売店の安全運転普及活動」に関するディスカッションなどを通じて活動のレベルアップおよび活性化をめざしています。限られた時間ではありましたが、たいへん有意義な場であったと評価をいただいております。今後の活動の更なる活性化を期待します。

### 2 社会に求められるノウハウの創出と発信

#### 身体が不自由な方の安全な移動のために

すべての交通参加者に安心安全な交通社会の実現をめざす上で、身体が不自由な方や、障がい克服して運転復帰をめざす方に対する支援は重要なことです。この3年間で、リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト、Hondaセーフティナビ用「手動運転補助装置」、自操安全運転プログラム、移送安全運転プログラムの開発を完了し、発表いたしました。

特に、リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフトは昨年3月の発売以来、病院やリハビリ施設、大学の研究部門など60ヵ所で導入され、活用いただいています。今後は積極的な普及拡大と合わせ、導入先における活用状況の調査を進め、より実践的で有用なソフトウェア開発に結びつけてまいります。

また今年、大分県の社会福祉法人 別府リハビリテーションセンター、ホンダ太陽(株)と共同研究体制を構築し、身体が不自由な方を対象とした安全運転機器の検証とデータ蓄積、障がいの有無と運転操作の関係について共同で研究を進めています。

#### 将来の良識ある交通社会人の育成をめざして

昨年、熊本県でスタートした高校生交通安全教育活動は、今年から全国へ拡大展開しています。この活動は、自転車乗用中の交通事故負傷者数を年齢層別にみると高校生年代にあたる16~19歳が最も多くなっている一方、高校生に対する交通安全教育の機会が少ないことを鑑みてスタートしました。今年2年目となる熊本県も含め、19府県101校で実施し、約6万3000人の高校生に自転車および原付の教育を行っています。昨年のスタートから延べ176校、186回の開催で、約7万9000人の高校生に対する教育を行うことができました。高校生に対する教育のポイントは実技だけでなく、他者に対する思いやりや、命の大切さを伝え、将来の良識ある交通社会人の育成につなげていくというものです。今後は、実施した各高校が自立して交通安全教育を継続できるような取り組みを進めてまいります。

## 2014年に向けて

2014年4月から、新たな3ヵ年計画がスタートいたします。これに期に、安全運転普及本部としては、「先進性・独自性のある取り組みで、すべてのお客様の安心安全な交通社会の実現」をめざします。これは、クルマやバイクに乗っている人のみならず、歩行者、自転車利用者など交通社会に参加するすべての人の安全を、他にはないHondaならではの先進性・独自性に富んだ様々な取り組みで実現していくという想いです。そして、その実現に向けた次の3ヵ年の方針を「先進性・独自性のソフトウェア開発による、戦略的な普及活動への転換」として活動を進めてまいります。

重点課題は以下の3項目といたしました。

#### ①教育ソフトウェアの開発と導入に向けて

Hondaの安全教育は、Hondaの活動に賛同していただける官公庁や関係諸団体、自動車教習所の方々との連携や、二輪・四輪・汎用販売会社、交通教育センターなどと一体となって取り組むことによって、具体的な活動に結びついています。一方、こうした方々がHondaに期待していることは、先進性、独自性に富んだ教材やツール、あるいはシミュレーターなどのプログラムや仕掛け・仕組みも含めた、ソフトウェアに他ならないと思っています。従いまして、このソフトウェアの開発にさらに重点を置き、取り組んでまいります。

#### ②普及活動の変革と新化に向けて

Hondaの普及活動には様々な形態がありますが、主には、賛同いただいている指導員の皆様にHondaの教材や情報を提供し、活動を支援するという取り組みが大きな割合を占めています。今後、安全に対する普及活動を更に拡大していくためには、指導員の皆様との連携だけでなく、新たな普及活動にも積極的にチャレンジし、Hondaの安全に対する取り組みを広く一般のお客様にも拡大していきたいと考えています。

#### ③進展国 二輪事故低減の実現に向けて

世界の交通状況に目を向けてみますと、特に進展国における二輪の死亡事故増加に対する歯止めがかかっておらず、残念ながら「安心安全」な交通社会とは大きく乖離した状況となっています。今後、グローバルでの安全に対する取り組みが加速することを踏まえ、各地域、各現地法人の実態に即した支援が必要となることから、それらの支援を通じて、「自由な移動の喜び」に寄与してまいります。



地域での  
指導者

## 交通安全を伝える地域の指導者を支援

交通安全を学ぶ場を全国に拡げ、各地域に定着させるためには交通安全を伝える指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは「手渡しの安全」の担い手となる指導者づくりに取り組んでいます。Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員※、自動車教習所の教習指導員、Honda関連会社の従業員等、地域の指導者に対し、指導方法などの提供を通じて、指導者の主体的な交通安全教育をサポートしています。

※交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員



### 47都道府県での指導者づくりが完了

Hondaでは、全国5カ所(下記参照)の各製作所内にある地区普及ブロックがHondaの交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに、研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。活動開始から6年目を迎えた今年、47都道府県での指導者づくりが完了。これまでに約1万3000人の指導者を養成しました。

さらに、地域の指導者の継続的な活動をサポートするため、交通指導員の方々を対象にした合同研修会を全国各地で開催しています。今年1月に三重県、2月に静岡県、8月に宮崎県、福島県、埼玉県、兵庫県、佐賀県で開催し、39府県合計216名の交通指導員が参加。相互に日頃の指導方法の実演や意見交換を行い、指導力の向上に役立てていただきました。

### 地域と一体となった活動を展開

Hondaでは関連企業内にも交通安全の指導者を養成しています。交通安全センターで指定された養成研修を受講した関連企業の従業員を、Hondaパートナーシップインストラクター(HPI)として認定。今年2社10名が新たに認定され、合わせて40社128名が活動しています。HPIは参加体験型の「親子交通



クミ化成(株)名古屋工場のHPIによる愛知県立春日井高等養護学校でのHonda自転車シミュレーターを使った交通安全教室

安全教室」(P13参照)や自社の従業員に向けた交通安全教育などを開催し、各々の関連企業周辺地域における普及活動に取り組んでいます。

また、Hondaは同じ志を持つ16都道府県41校の自動車教習所と連携。教育プログラム・教材や指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各自動車教習所が主体的に取り組む交通安全活動をサポートしています。

- 地区普及ブロック 所在地
- 栃木普及ブロック (栃木県真岡市) TEL:0285-84-7114
  - 埼玉普及ブロック (埼玉県狭山市) TEL:04-2955-5323
  - 浜松普及ブロック (静岡県浜松市) TEL:053-439-2316
  - 鈴鹿普及ブロック (三重県鈴鹿市) TEL:059-370-1553
  - 熊本普及ブロック (熊本県大津町) TEL:096-293-3206

運転管理者・  
指導者の養成

## 企業・団体で安全運転教育を推進できる指導者の育成

企業・団体のリスクマネジメントとして、社員の交通事故防止対策は重要な取組みです。社内で安全運転教育を推進するためには、日常的に具体的な指導のできる運転管理者や指導者が必要です。全国7カ所にあるHondaの交通安全センター(P22参照)では、豊富な経験や知識・技能を持つインストラクターが企業・団体での指導者づくりにあたっています。



### 参加体験型の実践教育により 企業・団体の指導者づくりをサポート

交通安全センターでは、バイク・クルマを業務等で使用する企業・団体の実情に合った交通安全教育のノウハウを提供し、具体的に安全運転教育ができる指導者を育成する研修を開催しています。例えば、鈴鹿サーキット教育センターでは、郵便事業(株)の安全運転指導者への研修を実施。社内で適切な教育を行うための指導方法を身につけていただきました。こうした指導者への研修では、事故防止に関するノウハウを伝えるだけでなく、ドライバーが自分の運転の問題点に気づき、安全運転につながる改善策を自ら導き出せるような指導力を身につける実技を行っています。

また、企業の指導者養成の一環として、Honda社内の事業所における工場インストラクターの養成も担っています。養成された工場インストラクターは、従業員やその家族に交通安全情報を伝えるほか、周辺住民の方々への啓発活動に取り組んでいます。

### 社内のインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会の提供を通じて、日本および全世界に



企業の安全運転管理者などを対象に安全運転指導



11月に鈴鹿サーキット交通安全センターで開催された第14回セーフティジャパンインストラクター競技大会

通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。14回目となる今年、国内の交通安全センターや事業所、海外6カ国からインストラクター64名が選手として参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、各3種目の競技に加え、指導者としての幅広い知識や指導力を確認するロールプレイングによる「指導力審査」(海外選手は「筆記レポート」)も行い、指導力の向上につなげています。



幼児・小学生・中学生

# 子どもの成長段階に合わせた交通安全教育を普及

Hondaは、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、幼児・小学生には交通行動の基本である「止まる」「観る（観察する）」を身につけてもらうための教育を普及しています。自転車の事故に遭いやすい中学生には、危険予測能力の向上とともに交通ルールを守ることや思いやる心を持つことの大切さに気づいてもらうことで、自らの行動を変えてもらうための教育を展開しています。



## 「止まる」「観る」を身につけてもらうための「あやとりい」の普及

交通安全教育プログラム「あやとりい」は、子どもの成長にに応じ3つのプログラムがあります（P27参照）。この「あやとりい」による教育の場を普及させるため、Hondaでは地域の指導者に教材と指導ノウハウを提供。全国各地の交通指導員を中心に活用いただいています。香川県高松市の交通安全指導員の方々は幼稚園・保育所での交通安全教室で「あやとりい ひよこ編」を使った指導を行っています。「子どものイラストを動かしながら歩くべき場所を示せるので、幼児にわかりやすく説明できる」と好評です。また、茨城県つくば市の交通安全教育指導員の方々は「あやとりい」を使った交通安全教室を小学校で実施しています。こうした地域の指導者を通じて、今年は全国各地で約30万人（10月末現在）の子どもたちが「あやとりい」による交通安全教育に参加しました。

このほか、「Honda交通安全かるた」（P27参照）も交通安全教育の現場で活用いただいています。神奈川県逗子警察署



香川県高松市の交通安全指導員による高松市立宮脇保育所での「あやとりい ひよこ編」



茨城県つくば市の交通安全教育指導員によるつくば市立竹園東小学校での「あやとりい」

では今年1月から2月にかけて逗子市内の5つの小学校で「交通安全かるた大会」を開催。担当者は「守ってほしいルールが読み札を通して、リズムカルに耳に入り、子どもたちにも好評でした」と話しています。



神奈川県逗子警察署による小学校での「交通安全かるた大会」

## 中学生への自転車教育に様々な形で協力

中学生になると通学に自転車を利用する生徒も多くなります。静岡県藤枝市立瀬戸谷中学校では、同校の教諭と静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員の方々による交通安全の授業を実施しました。教材として使用したのはHondaが4月に発売した「危険予測トレーニングDVD」（P27参照）です。生徒たちは動画による自転車乗用中の交通場面を見て、どのような危険があるかを班に分かれて話し合い、その内容を発表。その後、交通安全指導員が解説とアドバイスを行いました。同校の小林彰校長は「危険を予測し、回避する力を育成する上で、効果的な指導ができました」と授業の成果を語っています。

また、浜松普及ブロックは8月に開催された富山県サイクル安全リーダー\*研修会に協力。この研修会は生徒自身の安全意識の高揚と自主活動の活性化を図ることが目的です。県内83の中学校のサイクル安全リーダー161名に、座学と実技を通じて、交通ルールやマナーを守ることの重要性、人への思いやりの大切さに気づいてもらうための自転車教育を行いました。



藤枝市立瀬戸谷中学校の教諭と静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員による交通安全の授業



浜松普及ブロックによる富山県サイクル安全リーダー研修会での自転車教育

\* 富山県警察本部が県内中学校の生徒の代表者をサイクル安全リーダーとして委嘱。サイクル安全リーダーは各学校の指導のもと、自転車通学する生徒に対して、交通ルールの遵守とマナーの向上や自転車の盗難防止を呼びかけている。

## 子どもと親が楽しく交通安全を学ぶ親子交通安全教室

Hondaパートナーシップインストラクター（HPI・P11参照）は、自治体や関係諸団体と協力して、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」を開催しています。自分の命を守るために交通安全が大切なことを再確認してもらうことが目的で、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を伝えています。例えば、トラックの死角に入った自転車が左折時に巻き込まれる状況を確認したり、飛び出しなど子どもに多い事故事例を模擬再現したりするなど、親子に気づきを促すプログラムを実施しています。

HPI養成企業の1つ（株）ケーヒン鈴鹿工場が主催する「鈴鹿地区親子交通安全教室」には親子188名が参加。開催に合わせて近隣にある小学校の児童に交通安全啓蒙ポスターを制作してもらい、交通安全教室の当日にポスターの優秀作品を表彰しました。親子交通安全教室は全国各地で開催回数を重ね、地域との連携を深めています。



（株）ケーヒン鈴鹿工場が三重県鈴鹿市で開催した親子交通安全教室



親子交通安全教室の会場内に展示された鈴鹿市立国府小学校の児童による交通安全啓蒙ポスター



# 道徳心ある交通社会人を育てるための新たな安全教育を全国で展開

Hondaは高校生に対して、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナー、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要です。そこで、Hondaは独自に高校生交通安全教育のプログラムを開発し昨年、熊本県において行政機関や教育機関と連携し、高校生交通安全教育を実施しました。今年から、この活動を全国へ拡大させるために各地で展開しています。



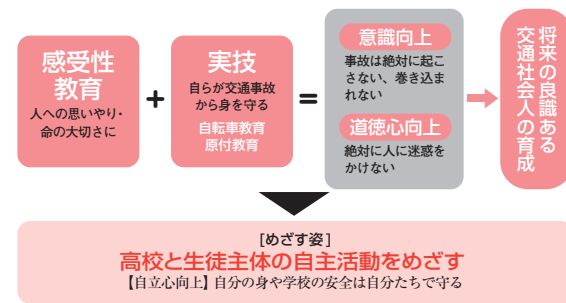
## 思いやりの心を身につけ、安全意識の向上につなげる

Hondaの高校生交通安全教育のベースには、「人を思いやる心を持つ」という教育的な観点があります。そして、自転車や原付の運転時における交通ルールやマナー、危険行動について、感受性教育や実技を通じ、高校生自らが考えることで行動変容を促すことをねらいとしています。

感受性教育では、交通ルールやマナーの重要性、事故を起こしてしまった場合の影響や責任を学ぶことで、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための教育を行っています。一方、実技では単に自転車や原付の操作スキルではなく、安全運転スキルを学ぶことに主眼を置き、危険を安全に体験し、危険ポイントを学ぶなど、自ら交通事故から身を守るという考え方を生徒に身につけてもらっています。この感受性教育と実技によって、「事故は絶対に起こさない。巻き込まれない」という意識の向上とともに、「絶対に人に迷惑をかけない」という道徳心の向上をめざしています。

現在、展開している高校生交通安全教育は感受性教育、実技（自転車教育、原付教育）で構成されており、各高校の状況に合わせ、生徒への適切な教育ができるようになっています。

### ●Hondaがめざす高校生交通安全教育の考え方



### ●高校生交通安全教育実施状況

府県	実施校数	府県	実施校数
福島県	14	岡山県	8
茨城県	1	鳥取県	1
栃木県	2	島根県	2
群馬県	7	香川県	1
静岡県	5	徳島県	1
石川県	1	高知県	2
三重県	3	佐賀県	4
滋賀県	1	大分県	7
大阪府	7	熊本県	12
兵庫県	22	計	101

平成25年11月末現在

## 自転車で事故を起こしてしまった場合の責任を考える

感受性教育はHondaの中学生・高校生への自転車指導マニュアル(P27参照)を使い、実際に中学生・高校生が加害者となった自転車事故の事例、または交通事故の被害者・加害者による手記をもとに生徒同士が話し合うことで安全意識の向上を図るものです。

兵庫県立小野工業高等学校では、先生方が自転車事故の事例を使って1～3年のクラスごとに感受性教育を実施しました。自転車乗用中の「携帯電話使用による交通事故」を題材に、生徒一人ひとりが事故の原因、自転車利用者の心理状態、事故が起きた後の影響をワークシートにまとめた上で班に分かれ、グループ討議を行い、発表します。それらをクラス全員で共有し、最後に事故防止に向けた決意をワークシートに記入し終了。指導を担当した先生からは、「交通安全の授業を担当したのは今回が初めてでしたが、自転車指導マニュアルにはしっかりとした指導案も用意されていたのでスムーズに進めることができました」という感想を話しています。



兵庫県立小野工業高等学校での感受性教育



兵庫県伊丹市立伊丹高等学校での自転車教育



岡山県立笠岡工業高等学校での原付教育



熊本県立翔陽高等学校での生徒指導員による原付教育

## 体験を通して思いやりの大切さを理解する

実技（自転車教育、原付教育）では体験を通して、人への思いやりや事故から身を守ることの大切さを生徒が主体的に考えられるように工夫されています。

例えば、自転車教育の「8の字走行体験」は直径8mの円をつなげた8の字コースを自転車20台で走行します。8の字の交差する場所では、お互いの動きをよく見て譲り合えば、スムーズに走れないことを生徒に気づいてもらうことが目的です。

また、原付教育では二輪車の安全運転に必要な知識とスキルを習得し、危険走行や交通法規違反が事故につながることを生徒に理解してもらうことが目的です。

実技を実施した高校の先生方からは「簡単にできそうに思えて、実際にやってみると難しいので、生徒が興味を持って取り組める内容です。また、生徒の安全意識向上に効果があるだけでなく、教職員も指導に参加したことで、私たちが交通安全教育の重要性を再確認できました」と好評です。

## 高校と生徒が主体となった自主活動をめざす

Hondaの高校生交通安全教育は、「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という自立心の向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動に発展させていくことを目標としています。

熊本県立翔陽高等学校は平成24年度に、2年生を対象に原付教育を5回実施しました。今年3月には平成25年度の活

動に向け、原付教育を受けた2年生のうち5名を生徒指導員として養成。そして4月、この生徒指導員5名(3年生)が新規原付通学者(2年生)に対し、座学と実技による指導を行いました。生徒指導員の一人は「自分が通学時に感じた危険を先輩に伝えたいと思い、指導員になりました。自分の体験を交えながら、わかりやすい説明を心がけています」と話しています。同校では、先輩から後輩へ安全運転への思いを継承するためのサイクルが出来上がりがつつあります。

今後も、Hondaはプログラムの内容を充実させ、実施高校に対して継続的な支援を行っていきます。



運転者・  
高齢者

## 教え込むのではなく、気づきを促す 参加体験型の実践教育

ドライバーやライダーなどの運転者には、参加体験型の実践教育により、安全についての理解を深めていただくための場を、Hondaの交通教育センターや二輪・四輪・汎用販売会社が提供しています。高齢者には自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための気づきを促す教育プログラムを展開しています。



### 企業・団体などのニーズに合わせて 安全運転教育を提供する「交通教育センター」

交通教育センターでは社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約8万2000人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供。例えば、交通教育センターレインボー埼玉では東京ガス（株）の50歳以上の社員を対象にシニア安全運転研修を実施しています。同社は「ベテラン社員に若い頃との変化を気づいてもらえるので、安全運転につながる」と研修プログラムを評価しています。また、企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。交通教育センターレインボー埼玉・和光では「2013トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催し、261名の方々に参加していただきました。「安全に強い職場作りと人材の育成」をテーマに、三菱電機ビルテクノサービス（株）や東日本電信電話（株）などの事故防止活動が紹介されました。

個人のお客様向けには、Honda モーターサイクリスト・スクール（二輪）やHonda ドライビング・スクール（四輪）を開催。さらに今年は、交通教育センターレインボー埼玉および浜名湖で初心者ライダーを対象にした「宮城光スポーツライディ



交通教育センターレインボー埼玉での東京ガス（株）の50歳以上の社員を対象にしたシニア安全運転研修



交通教育センターレインボー埼玉での宮城光スポーツライディング

ング」を実施。埼玉では一般のライダー15名が受講し、参加からは「宮城さんから直に自分の運転に対するアドバイスをもらえ、参考になった」という声が聞かれました。

### 手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動を実践。安全運転に関するHondaの社内資格<sup>\*1</sup>を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。

毎年、春と秋の「全国交通安全運動」（主催：内閣府ほか）に合わせて、オールHonda<sup>\*2</sup>で、「セーフティキャンペーン」を開催し、「交通安全啓発ツール」の配布などを行い、広く交通安全を訴求しています。

四輪販売会社であるHonda Cars熊本東では店内でお客様とそのお子様を対象に交通安全教室を実施。Honda Cars山陰中央やHonda Cars駿河では、スタッフが近隣の幼稚園で「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全教室を行うなど、地域社会と連携した交通安全活動を推進しています。

二輪販売会社ではお客様への安全アドバイスができるライディングアドバイザーを養成。Honda DREAM高槻では、定期的にお客様を対象としたライディングスクールを開催し、ライディングアドバイザーが指導を行っています。

### 高齢者への交通安全教育

高齢者には自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための教育が必要です。交通教育センターでは高齢ドライバー向けの少人数制教育プログラム「Honda健康ドライブスクール」を実施しています。このスクールは自己観察法<sup>\*3</sup>と呼ばれる手法を取り入れ、高齢者自らが自分の運転の問題点に気づき、行動変容を促すことを目的としています。栃木県では、このプログラムを使用して2009年度から「しあわせ高齢ドライブスクール」をアクティブセーフティトレーニングパークもてぎで開催しています。2013年10月末までに750人以上の高齢者が受講しました。主催する栃木県は「県内の高齢ドライバーの交通事故件数は減少しているので、今後もスクールを継続していきたい」と話しています。

高齢の歩行者、自転車利用者に向けては、Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりい 長寿編」「交通安全ビデオ講座」「シルバー楽集大学」（P27参照）を普及しています。例えば、三重県の四日市市交通安全協議会に所属する交通安全教育指導員8名で構成される「とみまつ隊」は市内の公民館や集会所で「あやとりい 長寿編」を活用し、高齢者への歩行者教育を実施しています。



Honda Cars 山陰中央による幼稚園での「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全教室



Honda Cars 熊本東による「危険予測トレーニング」（P27参照）を使ったお客様とお子様への交通安全教室

<sup>\*1</sup> Hondaの社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、電動カート「モンバル」の安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンバル安全運転指導員」などがある。

<sup>\*2</sup> Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda DREAM）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

<sup>\*3</sup> 東北工業大学の太田博雄教授らが（公財）国際交通安全学会などで研究成果を報告しているもので、自分の運転を録画して観察し、「我が身振り返り、我が振り直す」手法。



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでのしあわせ高齢ドライブスクール



四日市市「とみまつ隊」による「あやとりい 長寿編」



関係諸団体  
との連携

## 交通事故の低減に向けた 関係諸団体等との連携による取り組み

Hondaでは、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。



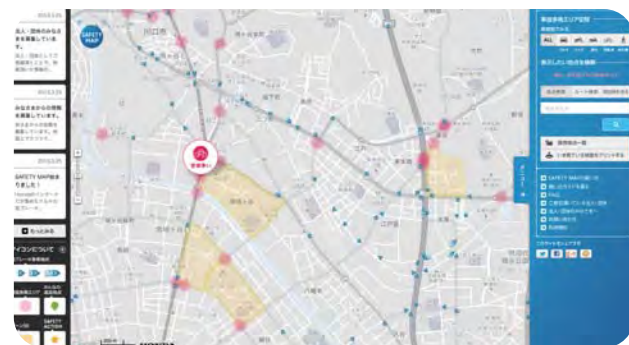
### 埼玉県警察本部との共同研究の結果を報告

Hondaは埼玉県警察本部、(株)レインボーモータースクールと「交通事故削減のための協力に関する覚書」を交わし、昨年、高齢歩行者横断事故削減プロジェクトを立ち上げ、早稲田大学の協力のもと共同研究に取り組みました。夜間における高齢歩行者の死者数が顕著であることから、こうした死亡事故の原因を自動車側と歩行者側の両面から究明することを目的としています。今年、その研究結果を報告しました。様々な実験や事故分析などから、夜間の道路横断中の事故は歩行者の無理な横断によるものもありますが、大きな要因としてはドライバーから歩行者が見えていないことがわかりました。そうした要因をドライバーと歩行者それぞれに理解してもらうため、プロジェクトでは対策案の1つとして啓発のための教材(DVD)「危険を識(し)る～夜間高齢歩行者事故を防ぐために」を制作しました。このDVDは埼玉県内の警察署や県トラック協会などで活用されています。

さらに、3月に一般公開した「SAFETY MAP<sup>\*1</sup>」にはインターネット<sup>\*2</sup>から収集した急ブレーキ多発地点データと、埼玉県警察本部から提供いただいた交通事故情報やゾーン30情報、地域住民の方々などから投稿される危険スポット情報を掲載しました。9月末には警察庁、ITARDA<sup>\*3</sup>などから提供いただいた情報も掲載し、地域の安全活動に活用できるよう、全国に拡大し展開しました。



高齢歩行者横断事故削減プロジェクトの実験(協力:石田敏郎・早稲田大学教授)



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)以下のホームページでご覧いただけます。 <http://safetymap.jp/>

<sup>\*1</sup> 地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップ。急ブレーキ多発地点や事故多発エリア、ゾーン30などの情報に加え、「見通しが悪い」「飛び出しが多い」など一般投稿された危険スポット情報を地図上に掲載している。

<sup>\*2</sup> Hondaが開発した双方向通信型カーナビ。

<sup>\*3</sup> (公財)交通事故総合分析センター(イタルダ)

### 教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場を提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年13回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国74校134名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。また、今回より全国14校15名の教習指導員の皆様に審判員としてご協力いただき、審判に携わった教習指導員からは「非常に勉強になった。来年もぜひ審判員として参加したい」との声をいただきました。



第13回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

### 二輪車の交通事故防止のために

二輪車では、(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務のほか、(一社)日本二輪車普及安全協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導に協力。埼玉県のグッドライダーミーティングではHonda自転車シミュレーターを使って、ライダーに自転車利用者の立場を理解してもらうための指導を行いました。

また、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。



第46回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



第44回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力



グッドライダーミーティングの指導に協力

### 自動車教習所との連携による取り組み

Hondaは地域において交通安全活動に積極的に取り組んでいる16都道府県41校の自動車教習所と連携し、交通安全の輪を全国に広げています。また、教習所にも多くご活用いただいている自転車シミュレーターについて、小川和久・東北工業大学教授、青森モータースクール、弘前モータースクールと連携し、地元高校生を対象に自分の自転車の走り方について自己理解を深める手法を取り入れた新しい教育プログラムを実施しました。



Honda自転車シミュレーターを活用した新しい教育プログラムを実施



## 先進性・独自性のある 教育プログラムの普及拡大

Hondaでは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念を実践するために、身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故低減をめざしたいと考えています。これまでに蓄積したノウハウをもとに、医療や福祉など様々な分野に安全運転教育の新たな価値を提供しています。



### 運転復帰をめざす リハビリテーション中の方をサポート

現在、高次脳機能障害などにより加療中の方々が社会復帰をめざしてリハビリテーションに励んでいます。こうした方々の中には、運転復帰を希望される方もたくさんいますが、その一方で、医師や作業療法士には患者の方に「何を基準に運転可否を判断すればいいのか」という不安があります。Hondaはこうした声に耳を傾け、四輪ドライビングシミュレーターの技術を活用し、リハビリ中の方の運転に対する評価や訓練をサポートするための「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」を開発。下肢に障がいをお持ちで、両上肢での運転操作が可能な方に向けた、Hondaセーフティナビ用「手動運転補助装置」も用意しています。昨年3月の発売以来、60カ所の病院やリハビリ施設でこのソフトを導入いただき、導入先へのアンケート調査では「判断材料の幅が広がった」という声を数多くいただいています。

静岡県せいのみかたはらの聖隷三方原病院は、机上の検査で一定の基準をクリアした患者の方には教習所での実技評価を受けてもらうようにしています。同病院作業療法士の鈴木香菜子さん

は「机上の検査で問題がなくても、教習所で実車を運転できなかったというケースもあります。サポートソフトを使うことで、そうしたことを早い段階で発見できるようになりました」と話しています。高知県の近森リハビリテーション病院では、運転反応検査と危険予測体験の2つのコースを主に使っています。運転反応検査は反応速度の測定が本来の役割ですが、頭で考え、手と足を同時に動かすトレーニングとしても活用。これをクリアしてから危険予測体験に移行しています。同病院作業療法科科長補佐の矢野勇介さんは「従来のリハビリの訓練にサポートソフトを組み合わせたことで、注意障害の症状が改善した患者様もいらっしゃいました」と、導入の効果を語っています。



聖隷三方原病院(写真左)と近森リハビリテーション病院(写真右)で活用されているリハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト

### 身体が不自由な方の安全な移動のために

Hondaは、身体に障がいをお持ちの方や福祉に関わるドライバーの方々がより安心安全に自由な移動ができるよう、車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供することが必要と考え、福祉関連施設および福祉関連団体の協力のもと、ホンダ太陽(株)、(株)レインボーモータースクール、(株)モビリティランドと共同で安全運転プログラムを開発。4月より交通教育センターに導入しました。

このプログラムは、四輪での運転復帰や社会参加を目指す身体に障がいをお持ちの方が安全運転に必要な「走る」「曲がる」「止まる」といった基本行動を実車走行による体験を重ねることで、運転操作・感覚を把握できる「自操安全運転プログラム」と、福祉に関わる運転を行う方々のより安心安全なドライブをサポートする「移送安全運転プログラム」があります。

さらに、Hondaは大分県の社会福祉法人 別府リハビリテーションセンター、ホンダ太陽(株)と共同研究体制を構築しました。2015年3月まで身体に障がいをお持ちの方に向けた安全運転機器の検証とデータ蓄積、障がいの有無と運転操作の関係について共同で研究していく予定です。

### 実車での認知・判断・操作の基本行動を確認

交通教育センターレインボー熊本では熊本県の阿蘇温泉病院と武蔵ヶ丘病院が「自操安全運転プログラム」を利用。リハビリ中の方3名がインストラクターと一緒に実車に乗り、交通教育センター内のコースで安全運転に必要な認知・判断・操作の基本行動を体験しました。7ヵ月ぶりに運転したという55歳の方は「公道で事故は起こせませんから、安全に運転を練習できる施設とプログラムがあつて良かったです。今日は前進のみでしたが、次はバックや車庫入れの練習をして、よりスムーズな運転ができるようになりたいです」と運転復帰への手ごたえを感じていました。

患者の方に同行した阿蘇温泉病院医療福祉相談室の齊藤隆浩さんは「実車を使って患者様はもちろん、私たちも運転能力を直接確認できるので、運転再開に向けてより適切なアドバイスができます。今後も、積極的に活用していきたい」と、このプログラムを評価しています。また、武蔵ヶ丘病院リハビリテーション科部長の木原伸一さんは「交通教育センターのような安全が確保された場所で、実車を使った練習ができるのはありがたい。患者様も自分が運転することで励みになり、『これなら大丈夫』と感じれば自信にもつながるでしょう」とプログラムの効果を話しています。

すでにこのプログラムを受講された方に、条件付免許証交付が許可されるなど、取組みは徐々に拡大しています。



社会福祉法人 別府リハビリテーションセンター(写真中央)、ホンダ太陽株式会社(写真右)、Honda(写真左)による共同研究の調印式



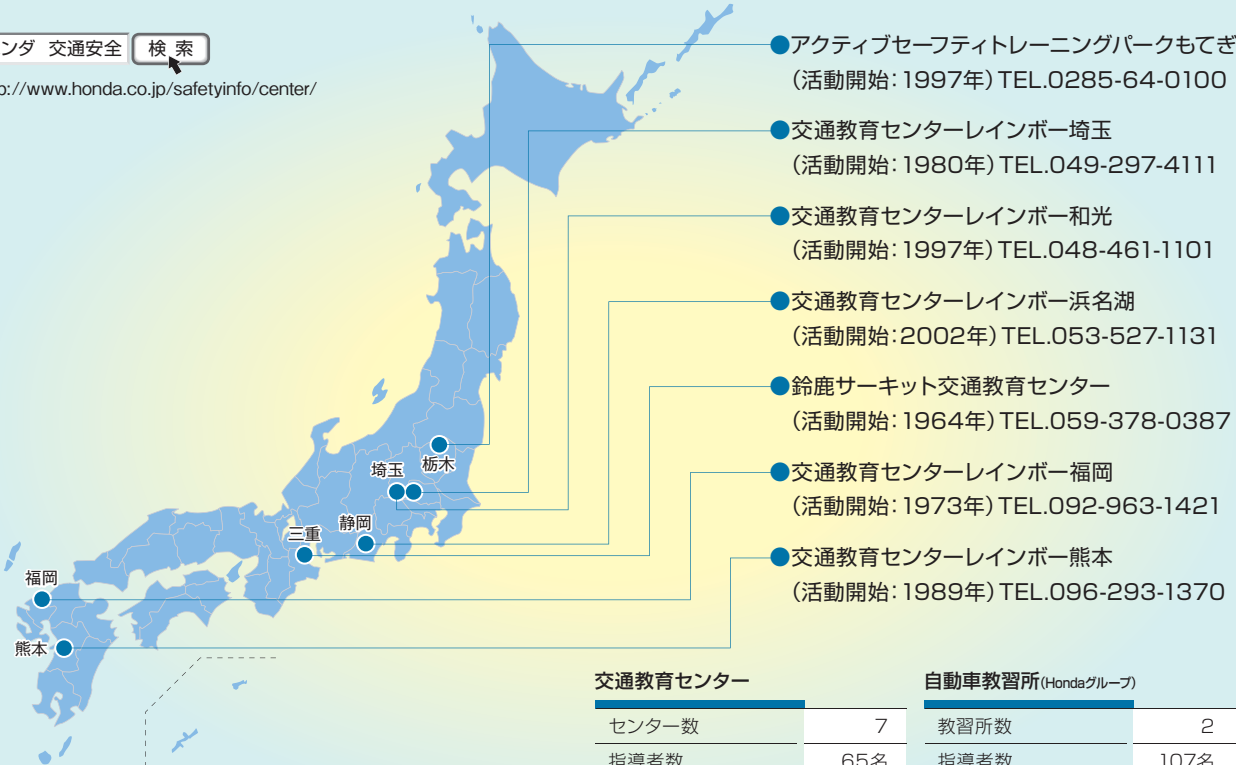
交通教育センターレインボー熊本での阿蘇温泉病院と武蔵ヶ丘病院の患者の方を対象にした自操安全運転プログラム



## 交通教育センター

ホンダ 交通安全 検索

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/center/>



交通教育センター		自動車教習所(Hondaグループ)	
センター数	7	教習所数	2
指導者数	65名	指導者数	107名
四輪研修車両	201台	四輪教習車両	134台
二輪研修車両	666台	二輪教習車両	103台

2013年11月末現在

### 交通教育センターが提供する安全運転教育プログラム

Hondaの交通教育センターでは、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。個人のお客様向けには、クルマやバイクの魅力を実感いただきながら、楽しく安全運転の知識を身につけていただける様々なコースを用意しています。

#### HMS (Hondaモーターサイクリスト・スクール)

HMSは、車両の取り回しや運転姿勢、ライディングの基本である「走る・曲がる・止まる」を身につけていただく参加体験型のスクールです。専門のインストラクターが安全運転のポイントをアドバイスし、運転技術とともに安全意識を高めることができます。



#### 親子でバイクを楽しむ会

バイクに乗る体験を親子で共有することで、親子の絆を深めていただくためのスクールです。お父さん、お母さんが先生になって、バイクの操作方法や楽しさ、交通ルールやマナーの大切さをお子様へ伝えます。ご家族のコミュニケーションづくりにも最適です。



#### HDS (Hondaドライビング・スクール)

HDSは、日頃の安全運転に役立つ知識や技術を身につけていただく参加体験型のスクールです。運転に自信がない方には基本から丁寧にアドバイス。もっと運転を楽しみたい方も、Hondaの先進設備で危険を安全に体験する運転トレーニングが行えます。



#### 企業向け安全運転研修

各企業の実情に合わせた交通安全教育を提供しています。これまでに1500社を超える企業様の交通安全対策をサポートしています。安全運転研修に参加された企業様は、その後の実績や調査から、事故の減少効果が確かめられています。



## 海外拠点

海外でのお客様や地域社会へ交通安全を伝える活動は、Hondaの現地法人・関係拠点が主体となって展開し、世界36カ国で活動しています。(日本を除く)



### 活動事例

海外では販売店でのお客様への納車時安全啓発や、交通教育センターでの実践教育、女性のお客様や子供を対象とした安全教育を中心に、政府や関係団体と連携しながら各国の交通事情に即した活動が活発に展開されています。

#### インド

Honda Motorcycle & Scooter Indiaは「お客様に安全を届けるまでが仕事」という意識を持ち、子どもや学生、さらに社会進出が著しく増加する女性に対し活動を拡大。活動を支える販売店での納車時安全アドバイスを強化し、警察を含む政府が保有する交通公園を借り受けて教育センターとして活用するなど、インド全土への交通安全教育の普及をめざしています。



これから社会人になる学生へ行った安全運転講習

小学校で行った交通安全教室



#### Safety Driving Managers Meeting (各国責任者会議)

昨年に引き続き、安全運転実務責任者を集めた「Safety Driving Managers Meeting」を鈴鹿サーキットで開催。タイ、ベトナム、フィリピン、中国、インド、インドネシア、マレーシア、日本の世界8カ国から活動を行う現地法人や事業所の責任者21名が参加しました。地域や国によって交通事情が大きく異なるため、活動の方向を提示するとともに、各国の活動事例を共有。さらに「販売店の安全運転普及活動」に関するディスカッションなどを通じて、今後の活動のレベルアップおよび活性化を図ることをめざしています。



会議では活発な意見交換が行われた

各国責任者会議の出席者





## 2013年安全運転普及活動動員数(2013年1月~12月末見込み)

### Hondaグループ活動

地域普及活動	指導者	参加者
あやとりいシリーズ	866	7,462
自転車シミュレーター教育	121	18,400
いきいき運転講座	176	1744
シルバー衆集大学	176	173
交通安全ビデオ講座	110	277
高校生教育	0	63,103
その他のイベント	213	12,938
<b>交通安全センター</b>		
企業向け四輪講習	5,457	32,454
企業向け二輪講習	1,988	6451
個人向け四輪講習	-	2425
個人向け二輪講習	-	20,306
その他 ※安全運転管理者講習 反映	14	35,664
<b>販売会社</b>		
安全運転講習会	-	544
<b>Hondaグループ活動合計</b>	<b>9,121</b>	<b>201,941</b>
<b>総合計</b>	<b>211,062</b>	

### 海外(タイ、ブラジル、インドネシア、ベトナム、中国など主要活動国での実績)

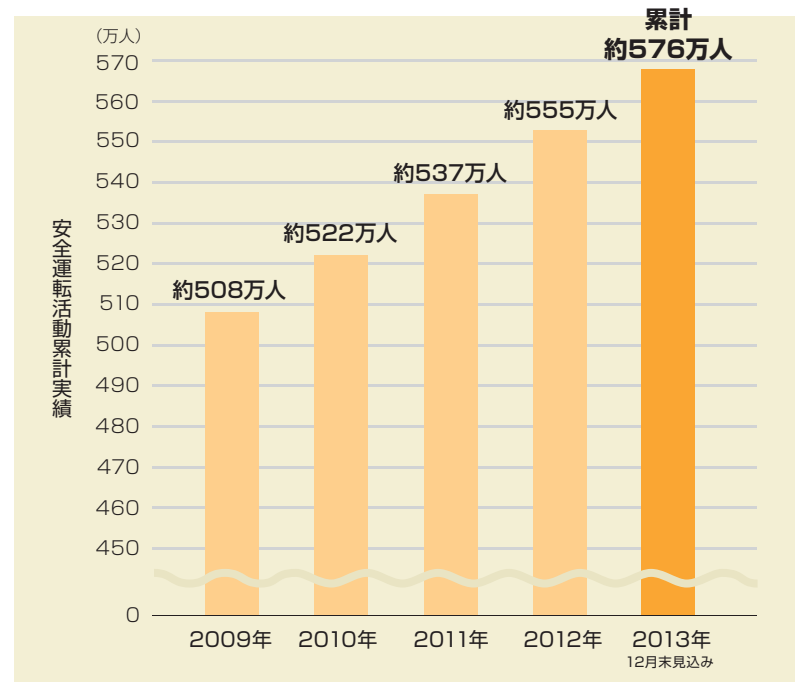
地域普及活動	参加者
<b>海外合計</b>	<b>3,278,100</b>

### 地域連携活動

	指導者	参加者
地域普及活動	85	443,206
教習所	0	73,784
その他イベント	-	95,287
<b>地域連携活動合計</b>	<b>85</b>	<b>612,277</b>
<b>総合計</b>	<b>612,362</b>	

### 2013年安全運転普及活動動員数累計

(Hondaグループ活動、1970~2013年12月末見込み)



## 安全運転普及活動一覧

### Hondaグループ活動

活動の場	活動内容	指導者	主な対象 子ども 学生 一般・指導者 高齢者	
国内	四輪 レインボーディーラー*1	店頭安全アドバイス/安全ミニ講習会/ドライビングスクール/地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター/交通安全推進責任者	● ● ●
	一輪 セーフティサポートディーラー*2	店頭安全アドバイス/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー/スポーツライディングスクールインストラクター	● ● ●
	汎用	店頭安全アドバイス	モンバル安全運転インストラクター/モンバル安全運転指導員	●
	交通安全センター	運転者、指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会/各年代別講習	交通安全センターインストラクター	● ● ● ●
	安全運転普及本部 地区普及ブロック	地域の交通安全活動協力/指導者養成協力	安全運転インストラクター	● ● ● ●
	Honda事業所	従業員への交通安全指導/地域の安全運転指導	安全運転インストラクター	●
	Honda関連会社	地域の交通安全活動協力	Honda パートナーシップインストラクター	● ● ● ●
	自動車教習所との連携	地域の交通安全活動協力/二輪・四輪スクール	教習指導員	● ● ● ●
	業界活動	交通安全キャンペーン/交通安全教育プログラムの編纂/指導者養成協力		● ● ● ●
	海外 現地法人	販売拠点 (四輪・二輪)	店頭安全アドバイス/ドライビングスクール/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター
交通安全センター		指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング/地域の交通安全活動協力/運転免許取得講習/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通安全センターインストラクター	● ● ● ●

\*1 レインボーディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした四輪販売拠点。  
\*2 セーフティサポートディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

## 情報公開

ホンダ 交通安全  検索 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

### ホームページや情報紙を通じた情報発信

ホームページ「安全運転普及活動」では、安全運転に役立つ情報を発信。安全運転やエコドライブのポイントをはじめ、お子様や高齢者の方々に交通事故にあわないようにしていただくためのアドバイスなどを紹介しています。

サイトはバラエティに富んだ内容となっており、イラストや動画で分かりやすく交通安全について学べる「危険予測トレーニング(KYT)」、親子で遊びながら学べる「交通安全ゲーム」のほか、「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」をはじめとした冊子や指導者向け教材などがダウンロードできるようになっています。学校や地域の交通安全教室でぜひ活用ください。

また、1971年より発行しているHondaの交通安全情報紙「Sj」を通じて、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。



## Honda 企業レポート MAP

<http://www.honda.co.jp/csr/library/>

Hondaは、世界中のステークホルダーの皆様から「存在を期待される企業」となるために取り組んでいるさまざまな活動を5つの分野に分けて報告しています。皆様と積極的なコミュニケーションを図りながらHondaへのご理解と共感をより一層深めていただきご意見を頂戴することで企業活動のさらなる向上に努めていきます。





## 安全運転普及活動 この1年の歩み

2012

12月

- にしき幼稚園にてHonda Cars山陰中央のスタッフが「交通安全教室」実施(鳥取県、12/6)
- 「九州地区交通安全普及活動合同報告会」開催(熊本県、12/21)

2013

1月

- 「関東・信越地区交通安全普及活動報告会」開催(埼玉県、1/17)
- 「東海・近畿・中国・四国地区活動報告会・指導員研修会」開催(三重県、1/24～25)
- 鶴屋百貨店にて熊本市立必由館高等学校共同研究「反射材ファッションショー」に協力(熊本県、1/27)
- インド・ラジャスタン州に安全運転センターを開設(1/31)

2月

- 「中部・東海地区交通安全普及活動報告会」開催(静岡県、2/8)
- 大阪府警察本部交通安全担当警察官講習に協力(大阪府、2/14)
- 「北関東・東北地区交通安全普及活動報告会」開催(栃木県、2/22)

3月

- 所沢警察署「ASIMOと学ぼう交通安全」に協力(埼玉県、3/2)
- 二輪車安全普及協会四国ブロック高齢者二輪車安全運転講習会に協力(愛媛県、3/10)
- 「平成24年度熊本県高校生交通安全活動報告会」開催(熊本県、3/19)
- 「身体に障がいをお持ちの方や移送ドライバー向けの安全運転プログラム」およびHondaセーフティナビ用「手動運転補助装置」発表(3/27)
- 埼玉県警察本部、(株)レインボーモータースクールと共同で「夜間高齢歩行者横断事故防止対策DVD」作成(3/31)

4月

- 静岡県交通安全協会新任交通安全指導員研修会に協力(静岡県、4/5)
- 「Honda春のセーフティキャンペーン」実施(4/5～5/6)
- 社会福祉法人 別府リハビリテーションセンター、ホンダ太陽(株)と高齢者および障がい者等の安全運転教育に関する共同研究体制を構築(大分県、4/18)
- 「危険予測トレーニングDVD」発売(4/19)

5月

- 三重県小学校教職員交通安全教室研修会に協力(三重県、5/23～24・30～31)
- 館林交通安全協会指導者研修に協力(群馬県、5/29)

6月

- 「第13回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催(三重県、6/6～7)
- 藤枝市立瀬戸谷中学校「交通安全授業」に協力(静岡県、6/18)

7月

- 四日市市立三重西小学校「チャイルドビジョンを活用した子どもを守る交通安全教室」に協力(三重県、7/5)
- インド・デリー市内に交通教育センターを開設(7/20)

8月

- 「第46回二輪車安全運転全国大会」に審判派遣協力(三重県、8/3～4)
- 「富山県内中学校サイクル安全リーダー研修会」に協力(富山県、8/20～23)
- 北関東・東北地区(福島県)、南関東甲信越地区(埼玉県)、近畿・東海地区(兵庫県)、九州・山口地区(宮崎県、佐賀県)の「交通指導員情報交換会」開催

9月

- 「Honda秋のセーフティキャンペーン」実施(9/20～10/11)
- 国際福祉機器展にHondaセーフティナビ用「手動運転補助装置」を出品(東京都、9/18～20)
- 熊本県交通安全県民大会にて熊本県立南稜高等学校共同研究「反射材ファッションショー」に協力(熊本県、9/20)
- 埼玉県グッドライダーミーティングにて「自転車教室」開催(9/23、埼玉県)
- 自工会・各務原市交通安全キャンペーンに協力(岐阜県、9/24)

10月

- 富山自動車学校、富山県Honda会と共催で「セーフティ・フェスティバルin富山」に協力(富山県、10/6)
- 警察庁「第44回全国白バイ安全運転競技大会」に審判派遣協力(茨城県、10/12～13)
- 「二輪車安全運転推進委員会特別指導員中央研修会」に協力(茨城県、10/28～29)

11月

- 「2013 トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」に協賛(埼玉県、11/8)
- 「Safety Driving Managers Meeting」開催(三重県、11/13)
- 「第14回セーフティジャパンインストラクター競技大会」開催(三重県、11/14～15)
- 「宮城光スポーツライディング」開催(埼玉県、11/17・静岡県、11/23)

この他にも、様々な活動を実施しています。

## 安全運転教育機器／交通安全教育教材

教育効果を高めるため、各年代に応じた教育機器・教材を開発しています。危険を安全に体験できる二輪・四輪・自転車などの各シミュレーターや、各種交通安全教育教材の開発に力を入れています。

ホンダ 交通安全 検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/  
※各種教材機器・機材に関しては、ホームページで詳しくご紹介しています。

ホームページで体験・ダウンロード可能な材料等



Hondaの交通安全ゲーム  
親子で遊びながら楽しく交通安全を身につけられるゲーム。



あやとりい ひよこ編  
(幼児～小学校低学年対象)  
イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学ぶことができる。



あやとりい子ども自転車  
トレーニングマニュアル  
(幼児～小学校高学年対象)  
実際に自転車に乗って安全意識を育てる体験型プログラム。安全を楽しく身につけることができる。



あやとりい  
(小学3～4年生対象)  
小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養う。



Honda交通安全かるた  
子どもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを45種類紹介。かるた遊びを通して、「正しい交通行動」が学べる。



Honda自転車シミュレーター  
自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図る。  
※小学生～高齢者まですべての世代にご利用いただけます。



Hondaライディングトレーナー  
手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行える。



交通状況を鋭く読む  
～危険予測トレーニング～  
運転者が路上で出会う危険を予測する能力を高めるためのトレーニング用教材。



Hondaライディングシミュレーター／  
Hondaドライビングシミュレーター  
二輪・四輪運転中に起こりうる危険場面を、実際に近い運転感覚で安全に体験でき、危険に対する認知や判断、理解を深める。



Hondaセーフティナビ  
「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できる。



Honda動画KYT  
集合教育において、実際の交通状況に近い動画を活用し、認知、判断を伴う危険予測能力を高めるトレーニングができる。



あやとりい 長寿編  
高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促す。



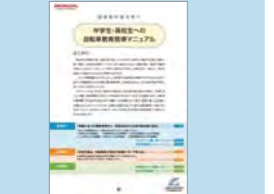
交通安全ビデオ講習  
ビデオに撮影された交通状況を観察して、その感想や意見を交換し、日頃の行動を振り返る。  
(監修:太田博雄・東北工業大学教授)



シルバー集英大学  
歩行者・自転車乗用中・自動車乗車中の各場面で、高齢者自身の安全を守るためのポイントをわかりやすく紹介した教材。



健康ドライブ読本  
高齢ドライバーの運転に関わる身体機能の変化と、それを補う方法など、運転に役立つ情報を習得できる。



中学生・高校生への  
自転車教育指導マニュアル  
実際の事故事例をもとに生徒自らが考えることを主とする指導方法などを紹介。45分授業を想定したワークシートや指導マニュアル。



危険予測トレーニング(KYT)  
動画で再現した交通場面のケーススタディを通じて、「交通センス=危険予測能力」を身につけるためのトレーニング。(DVDも販売中)



シニア向け  
交通安全啓発シート  
体験型コンテンツやクイズ、間違い探しなど、参加者と一緒に話し合いながら学習をすすめられる指導者向け教材。